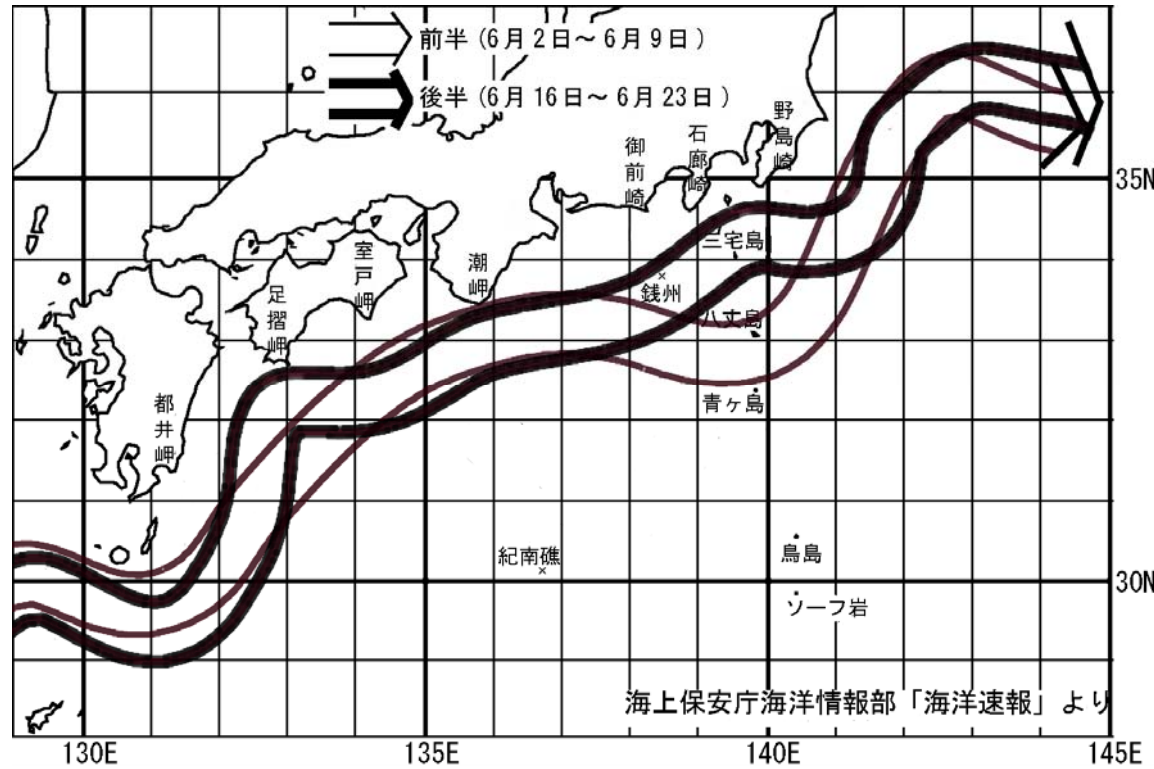


漁海況月報

平成23年 6月 1日

No. 6 ~6月30日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



定地水温の旬平均値 (°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	19.8	20.8	20.3	20.2	21.1	20.9	20.2
	0.0	1.7	0.9	-0.3	0.5	0.3	-0.1
中旬	20.7	20.1	19.4	20.8	22.1	21.9	21.6
	0.3	0.5	-0.4	-0.5	0.6	0.8	0.7
下旬	21.3	19.7	19.8	22.5	24.4	22.4	22.3
	0.0	-0.9	-0.9	0.3	2.3	0.6	0.5
月	20.6	20.2	19.9	21.1	22.5	21.7	21.4
	0.1	0.4	-0.1	-0.2	1.1	0.6	0.4

【黒潮流路】

前半の黒潮は、九州の都井岬、足摺岬で離岸傾向を示し、潮岬で接岸した後遠州灘沖を蛇行し八丈島付近を通過して房総半島沖へ流去した。

後半の黒潮は、足摺岬、潮岬で接岸した後、遠州灘沖を接岸傾向で直進し、三宅島付近を通過して房総半島沖へ流去した。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は、相模湾側では19~21°C台、駿河湾東部では20~24°C台、駿河湾西部では20~22°C台で経過した。県下沿岸は7月中旬までは平年並みから高めで経過した。相模湾側では、下旬に南西風による一時的な水温低下が見られた。駿河湾奥部では下旬も高めの水温で経過した。

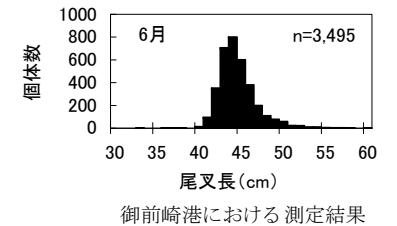
【竿釣近海カツオ】

県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオの水揚量は289トで前年同期の201%であった。魚価は361円/kgで、前年同期を下回った。

静岡県近海では30°~34°N、138°~140°Eの鳥島からゼニスにかけて小・極小(尾叉長44cmモード)、中カツオを漁獲した。

竿釣りカツオ水揚量 (近海・沿岸、県内主要5港)

期間	水揚量 (ト)	水揚隻数	水揚/隻 (ト)	平均単価 (円/kg)
23年 6月上旬	124	21	5.9	304
中旬	90	11	8.2	413
下旬	75	16	4.7	393
23年 6月計	289	48	6.0	361
22年 6月計	144	39	3.7	387
21年 6月計	304	48	6.3	309



【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は709トで、前年同期の同漁場の水揚量(800ト)の約9割、平年(昭和57~平成22年の平均、417ト)の約1.7倍の量であった。

魚種別では、①サバ類309.5ト②カタクチイワシ193.9ト③マルソウダ90.4ト④マアジ51.3ト⑤イサキ11.1トの順に水揚げされた。

サバ類は尾叉長で33~37cmのゴマサバを主体に37~40cmのマサバが混じる状態で伊豆山、北川漁場を中心に前年同期の3.6倍の量が水揚げされた。また、カタクチイワシも尾叉長で概ね13cmの大きさものが伊豆山、北川漁場を中心に前年同期の3.7倍の量が水揚げされた。一方、マルソウダ、マアジは尾叉長でそれぞれ33cm、20cmの大きさものが主に水揚げされたが前年同期と比較するとそれぞれ2割、6割程でしかなかった。イサキは、北川、富戸漁場を中心に前年同期の約8倍、平年の約2倍の漁獲量となり好漁となった。

漁場別では、北川171ト(サバ類、マルソウダ主体)、伊豆山138ト(カタクチイワシ、ゴマサバ主体)、赤沢108ト(カタクチイワシ、サバ類主体)、川奈93ト(サバ類、マアジ主体)の順に水揚げ量が多かった。

【サバたもすくい・棒受網】

小川港には、たもすくい・棒受網によってマサバ1ト(前年同月比34%)、ゴマサバ880ト(前年同月比107%)が水揚げされた。1隻あたり水揚量は、マサバが0.0ト/隻(前年同月比36%)、

ゴマサバが26.7トン/隻(前年同月比113%)であった。マサバの平均単価は450円/kg、ゴマサバは58円/kgで、前月(62円)、前年同月(66円)を下回った。

たもすくい漁場は、上旬は大室出し、中下旬は利島に形成されたが、5月下旬の大室出しへの暖水波及によりマサバ漁は終漁しゴマサバ主体の漁獲であった。棒受網の漁場は前月に引き続き三宅、三本等に形成されゴマサバ主体の漁獲であったが、6月下旬の漁場への黒潮の接近に伴い漁況はやや低調となった。

ゴマサバの魚体は、尾叉長27~29cmモードの2歳魚(2009年級群)、1歳魚(2010年級群)主体であった。また、棒受網では27~29cmモードのオアカムロも混獲された。

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網)水揚量

期間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
23年6月上旬	1	455	5	15	0.1	30.4	450	60	大室出し、三宅、三本
中旬	0	328	4	13	0.0	25.2	—	54	利島、三宅、中瀬
下旬	0	97	2	5	0.0	19.3	—	60	利島、三宅
23年6月計	1	880	11	33	0.0	26.7	450	58	—
22年6月	3	826	12	35	0.1	23.6	253	66	利島、三宅、三本
21年6月	0	850	14	36	0.0	23.6	—	56	銭洲、三本、中瀬

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

【サクラエビ船曳網】

平成23年春漁は、6月5日夜で終漁となった。6月は2日の操業で168トンの水揚げがあり、漁場は主に富士川沖に形成された。

漁期を通してみると、操業日数は13日と前年春漁の15日を下回った。これは4月の天候に恵まれず、操業日数が3日と少なかったことによる。操業日数は少なかったものの水揚量は721トンと、前年春漁の640トンを上回った。

平均単価は3,085円/kgと、昭和49年以降、最高値を記録した前年春漁の4,596円/kgを下回った。水揚金額についても22.3億円と、前年春漁(29.4億円)を下回った。

サクラエビ水揚量

期間	水揚量(トン)	日数	1日1か統当り平均(kg)	漁場
平成23年6月上旬	168	2	平均 1,400	富士川
平成23年春漁計	721	13	平均 924	沼津~富士川
平成22年春漁計	640	15	平均 711	沼津~由比、大井川~吉田
平成21年春漁計	859	17	平均 842	富士川~由比、焼津~大井川

【シラス船曳網】

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾が170kg、遠州灘が572kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は458kgと前年同期(318kg)の144%、平年同期(過去5か年平均:573kg)の80%と前年同期を上回ったものの、平年同期を下回った。また、総水揚量は792.3トンで前年同期(793.3トン)とほぼ同じ、平年同期(1,327.2トン)の60%と下回った。平均単価は437円/kgと平年同期(524円/kg)を下回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新居	105.8	13	169	626	291
舞阪	331.7	14	578	574	402
福田	210.1	14	346	607	470
御前崎	60.8	15	145	420	541
吉田	56.1	13	282	199	588
静岡	27.6	10	210	132	646
平成23年6月計	792.3		1,730	458	437
平成22年6月計	793.3		2,494	318	671
平成21年6月計	1,467.0		2,895	507	714

【まき網】

小川港ではマイワシが1.1トンの水揚げで平年同期(34.1トン)の3%であった。沼津港では、マイワシが2.9トンの水揚げで平年同期(187.6トン)の2%であった。静岡港では、マイワシが0.4トンの水揚げで平年同期(7.5トン)の5%、カタクチイワシが27.9トンの水揚げで平年同期(268トン)の10%であった。伊東港ではマイワシが0.3トンの水揚げで平年同期(57.6トン)の0.6%であった。

注)平年同期:過去5か年(2006~2010年)平均

【調査船の動向】

駿河丸

6月1日	~	6月3日	地先定線観測	(3日間)
6月6日	~	6月10日	カツオ魚群分布調査	(5日間)
6月14日	~	6月16日	サバ計量魚探調査	(3日間)
6月20日			公共用水域水質測定調査	(1日間)
6月21日	~	6月22日	サクラエビIKMT調査	(2日間)
6月23日	~	6月24日	シラス調査	(2日間)
6月27日	~	6月28日	タチウオ生態調査	(2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

